

## IV 沖縄のソフトコーラル検索表

「同定の方法」の項で述べたように、同定の作業を行うには、得られた形質を既知の情報と比較照合することが必要である。同定に便利なツールとして、「検索表」がある。検索表は、対象生物の分類形質を、長いか短いかや、太いか細いか等の二者択一方式で一つずつ選択することを繰り返していけば、最後には目的とする生物名にたどり着くように作られている。しかし、生物の形態形質には、「中間形」があったり、「例外」も多く認められるので、途中で迷った時には、対象とする分類形質の特徴と変異を、関連する文献などで改めて確認することも重要である。また、検索表の以前の段階で間違っただけの選択をしていることも考えられるので、検索表をさかのぼって調べ直すことも必要である。

検索表を用いて対象生物に見当がついたときにも、その生物名でよいのかどうかの確認を行う。検索表は、各形質の代表的な特徴に基づいて記述されていることから、検索過程のどこかで間違っただけの判断をしてしまい、その結果、とんでもなく間違っただけの生物名に行きつくこともあるからである。確認作業は、その分類群の「標徴」に掲載されている形態的特徴との照合を行う。「標徴」は、その分類群が提唱された論文にはほとんど必ず掲載されているが、たとえば、その後の新種発見等により分類群の定義が変更されている場合もあるので、関係する論文には一通り目を通しておくことも必要である。最新の「標徴」において、形態的特徴と分布、それにもし情報があれば生態的特徴等も一致すれば、ようやく生物名が確定する。もし完全に一致しない場合は、再度検索表のどこかで間違っていた可能性を疑うとともに、新属や新種等の可能性も含めて、さらに検討を進めなければならない。

なお、ソフトコーラルの場合は、ほとんどの科において、含まれている属の検索表が提案されている。また、属によっては、所属する種の検索表が提案されている。しかし、ソフトコーラルは毎年多くの新種が発表されていることから、検索表に載っていない種や属もあるので、検索表だけで種や属を特定できると考えるのは間違いである。

下記に、沖縄産および沖縄に分布する可能性のあるソフトコーラルの属レベルまでの検索表を示した。

使い方は、まず、最初の番号にある A と B (場合によっては C) の中から最もよく適合した特徴を選択する。次に、その選択肢の最後に記入されている番号の項目に進み、その項目中の A と B (場合によっては C) の中から、最もよく適合している特徴を選択する。この作業を繰り返して、選んだ選択肢の最後が番号ではなくて生物名であれば、その生物名が、探していた生物の名前(下記検索表では原則として属名)である可能性が高いということになる。前述したように、特定の生物名にたどり着いたときは、次節の「沖縄のソフトコーラル図鑑」やその他の文献で、その生物についての特徴を詳しく調べて、検索の結果が正しいかどうかを確認する。

### 沖縄産ソフトコーラルおよび出現の可能性のある属または上位分類群までの検索表

(\* : 沖縄からは未発見 ; (\*) : 今回初報告)

- 1A. ポリプは単独に生じる (図 25) . . . . . 原始八放サンゴグループ Protoalcyonaria\*
- 1B. ポリプは群体を形成する . . . . . 2
- 2A. 群体は、砂泥等の柔らかい底質中に体の下方を差し込んで着生する (図 5)  
. . . . . ウミエラ目 Pennatulacea
- 2B. 群体は岩盤や転石等の固い底質に固着する . . . . . 3
- 3A. ポリプは、シート状、半球状、塊状、多数の板状や鹿角状の堅固な骨格の中に入る  
. . . . . 4
- 3B. ポリプは堅固な骨格の中に入らない . . . . . 6

- 4A. 骨格には遊離した骨片がある。骨格は赤い (図 8R, 39) . . . . . クダサンゴ属 *Tubipora*
- 4B. 骨格には遊離した骨片はない . . . . . 5
- 5A. 骨格は単純な塊状、鹿角状または多数の板状で、断面は青い (図 5, 8G)  
 . . . . . アオサンゴ属 *Heliopora* (アオサンゴ目: *Helioporacea*)
- 5B. 骨格はシート状に広がる基部から多数の円筒状の莢が直立する  
 . . . . . イシハナゴケ属 *Nanipora* (アオサンゴ目)
- 6A. 群体は、底質に貼り付くごく薄いリボン状 (図 8A) や網目状またはシート状 (図 8B) の共肉を持つ。ポリプは単生する . . . . . 7
- 6B. 群体は、底質から直立する小枝状 (図 9A, B)、樹状 (図 8J-L, 9C-D)、または多肉質の指状 (図 8P)、キノコ状 (図 8N-O)、ドーム状または底質を分厚く覆う塊状 (図 8D-F) の共肉を持つ . . . . . 23
- 7A. 共肉はごく薄いリボン状や網目状 . . . . . 8
- 7B. 共肉はシート状 . . . . . 16
- 8A. ポリプは退縮しない。共肉の骨片は円柱状で、表面には多数の桿状結晶が「杉アヤ状」に密生する (図 12-1G, 141E) . . . . . イタアザミモドキ属 (仮称) *Orangaslia* \*
- 8B. 花頭と触手は莢または花柄に退縮する . . . . . 9
- 9A. 花頭と触手は多少とも背の高い莢に退縮する (図 8A, 28C-D)。莢は皮革質で、紡錘状骨片 (図 12-1H-I, 28E) に覆われる . . . . . ウミツタ属 *Clavularia*
- 9B. 花頭と触手は背の低い花柄に退縮する . . . . . 10
- 10A. 花柄は縁辺が鋸歯状の板状骨片で覆われる。ポリプは骨片をごくわずかに持つか、または全く欠く。色は、黄色、赤、ピンク (図 33A-B) . . . . . アミゴケ属 *Sarcodictyon* \*
- 10B. 花柄は柔らかな膜質 . . . . . 11
- 11A. ポリプおよび共肉に骨片はない . . . . . 12
- 11B. ポリプまたは共肉に骨片がある。触手は羽枝を欠く。伸長時の触手は花びら状。共生藻を持つ . . . . . 15
- 12A. 群体はキチン質の固い鞘 (図 26) に包まれる。走根には唯 1 本の導管がある。共生藻を欠く . . . . . ホンハナゴケ属 *Cornularia* \*
- 12B. 群体にキチン質の固い鞘はない . . . . . 13
- 13A. 触手は羽枝 (図 3) を持つ . . . . . 14
- 13B. 触手は羽枝を欠く。伸長時の触手は著しく長い (図 27D)。共生藻を持つ  
 . . . . . センナリヅタ属 (仮称) *Acrossota* (センナリヅタ科 *Acrossotidae*) \*
- 14A. 触手軸と羽枝は太い (図 31)。共生藻を持つ  
 . . . . . フトユビハナヅタ属 (仮称) *Phenganax* \*
- 14B. 触手と羽枝は細い (図 29C)。共生藻を欠く . . . . . ハナゴケ属 *Cervera* \*
- 15A. 触手とポリプの頸部に薄い円盤状骨片 (図 12-1Q, 30) がある。花柄と走根に骨片はない . . . . . ハナビラヅタ属 *Knopia* \*
- 15B. 触手に薄い円盤状骨片のある他、花柄と走根に桿状骨片 (図 12-1C) があり、走根ではそれらの骨片が融合する (図 32G)  
 . . . . . ヒメハナビラヅタ属 (仮称) *Clavulariidae* gen. (\*)
- 16A. ポリプは共肉から単独で生じる . . . . . 17
- 16B. ポリプは共肉から束になって生じる (図 130A-B)。花柄下部は互いに融合して擬柄部 (図 130A) を形成する。ポリプは退縮しない。共肉の骨片は扁平な細長い桿状で、しばしば「くの字」状に折れ曲がったり (図 130D)、大きな突起を付け、その表面は板状またはとげ状の結晶が「杉アヤ模様」 (図 12-1G, 130C) に配列する。外部形態は

- ウミアザミ属 (図 136) に似る . . . . . ムレウミアザミ属 (仮称) *Fasciclia* \*
- 17A. ポリプは大きく長さ 5 mm 以上で、共肉から単生するが、成長したポリプは隣接したポリプの花柄が融合する (図 65B、C)。ポリプは共肉中に退縮しない。ポリプと共肉皮部の骨片は紡錘状 (図 12-1H)。ポリプは白色。共生藻を持つ  
 . . . . . タバネトサカ属 (仮称) *Protodendron* \*
- 17B. 隣接したポリプの花柄同士が融合することはない。共生藻を持つ . . . . . 18
- 18A. ポリプは共肉中に退縮しない . . . . . 19
- 18B. ポリプは共肉中に退縮する . . . . . 22
- 19A. 隔膜糸は、少なくとも成熟したポリプではすべての隔膜に発達する . . . . . 20
- 19B. 隔膜糸は反管溝側の 2 本にのみ発達する (図 133D) . . . . . 21
- 20A. 共肉の主要な骨片は、厚みのあるさまざまな形 (丸みのある、角ばった、中央の括れた、分岐のある等) の延べ板状 (図 139C) または円柱状。骨片の表面は樹状結晶 (図 12-20, 139D-E) で覆われる . . . . . ニセイタアザミ属 (仮称) *Ingotia* \*
- 20B. 共肉の主要な骨片は、表面の凸凹した玉子状 (図 140F) で、骨片の表面は桿状結晶 (図 12-2N, 140H, J) に覆われる . . . . . カワリイタアザミ属 (仮称) *Ixion* \*
- 21A. 共肉の骨片は、扁平で細長い桿状。その表面は「杉アヤ模様」に配列する結晶で覆われる (図 12-1G, 126E-G)。顕微鏡の透過光下で光らない。結晶は板状または単純なトゲ状 . . . . . イタアザミ属 *Anthelia*
- 21B. 共肉の骨片は、円盤状または扁平な楕円形 (図 12-1Q, 134D-E) で顕微鏡の透過光下で虹色に光る。結晶は樹状または虫状 (図 12-20)  
 . . . . . ニジイタアザミ属 (仮称) *Sansibia* \*
- 22A. 共肉は、皮部と内部の 2 層からなる (図 66D)。共肉の骨片は、皮部は鈍端で滑らかな紡錘状 (図 66I)、内部は細かな突起に覆われた長さ 1 mm 以上の紡錘状 (図 66J)。退縮したポリプの孔は、蜂の巣状に配列した骨片 (図 66B、C) で取り囲まれる。外皮の色は白～灰色。共生藻を持つ . . . . . ウスカワトサカ属 *Rhytisma* (\*)
- 22B. 共肉は皮部、内部、髄部の 3 層からなる (図 142L)。共肉の骨片は、皮部は無骨な紡錘状で、内部と髄部は紡錘状でしばしば不規則に分枝し (図 142K)、髄部では融合することがある。外皮の色は灰色～赤紫色  
 . . . . . ウスカワヤギ属 *Briareum* (石軸グループ *Scleraxonia*)
- 23A. 群体の中軸に石灰質や角質の骨軸がある . . . . . ヤギグループ *Gorgonian group*
- 23B. 群体の中軸に石灰質や角質の骨軸はない . . . . . 24
- 24A. 群体は多肉質の指状 (図 8P)、円柱状または稀に分岐する掌状 . . . . . 25
- 24B. 群体は、小枝状 (図 9A-B)、灌木状 (図 8H-I)、樹状 (図 8J-L)、あるいは多肉質のキノコ状 (図 8N-O)、ドーム状または底質を分厚く覆う塊状 (図 8D-F) . . . . . 36
- 25A. ポリプは二型 (図 4) で、指状群体の頂端に唯一の大きな通常ポリプが付く (図 42A)。管状ポリプは、通常ポリプの花柄部側面に多数密生する (図 42C)。深海性 . . . . . ヒトツトサカ属 *Bathyalcyon* \*
- 25B. 指状群体の上面または全体に多数の通常ポリプが付く . . . . . 26
- 26A. 群体の上面のみに多数の著しく大きな通常ポリプが付く頭状花序 (図 8M)。群体は著しく柔らかく、生時の色は灰色、クリーム色、灰青色または灰緑色。エタノール標本では灰色またはクリーム色。数個の群体がシート状の共肉で連なることがある。共生藻を持つ . . . . . 27
- 26B. 群体のほぼ全体に多数のやや大きな通常ポリプが付く。群体は多少とも硬く、生時の色はオレンジ色～赤色で、エタノール中でもほとんど変わらない。共生藻を欠く

- . . . . . 31
- 27A. ポリプは単型 . . . . . 28
- 27B. ポリプは二型 (図 4)。通常ポリプは著しく収縮するが、共肉中に完全に退縮することはない . . . . . 29
- 28A. 共肉の骨片は円盤状 (図 12-1Q) または扁平な楕円形 (図 136I) で、その表面は桿状結晶 (図 12-2N) で覆われる . . . . . ウミアザミ属 *Xenia*
- 28B. 共肉の骨片は円盤状または扁平な楕円形で、容易に分解する血球状結晶の集合体で形成される (図 133B) . . . . . ウミアザミモドキ属 (仮称) *Obavunda* \*
- 28C. 共肉の骨片は上面に太い隆起や側面に溝のある楕円形 (図 137D-F) で、表面は桿状結晶 (図 12-2N) に覆われる . . . . . ヤマザトウミアザミ属 (仮称) *Yamazatum*
- 29A. 通常ポリプは群体上面の全体にわたって分布する頭状花序 (図 8M)。管状ポリプは、成長した群体の通常ポリプの間隙に現れる (図 132B) . . . . . 30
- 29B. 通常ポリプは群体上面の外周近くに現れ、管状ポリプは冠部の中央付近に現れる (図 131A)。共肉の骨片は円盤状または扁平な楕円形 (図 131-E)  
. . . . . カンムリウミアザミ属 *Funginus*
- 30A. 共肉とポリプの骨片は円盤状または扁平な楕円形 (図 132G) で、その表面は桿状結晶 (図 12-2N) で覆われる . . . . . チガイウミアザミ属 *Heteroxenia*
- 30B. 共肉とポリプの骨片は、さまざまな突起やくびれのある小さな桿状、円盤状または角張った粒状で (図 127C, D, F)、表面はさまざまな形の結節状や桿状の結晶に覆われる (図 127G)。これらの結晶はしばしば融合してロケット状を呈する (図 12-2P)  
. . . . . ベイヤールミアザミ属 (仮称) *Bayerxenia* \*
- 31A. ポリプは単型 . . . . . 32
- 31B. ポリプは二型 (図 4) . . . . . 35
- 32A. ポリプに骨片はない。共肉皮部の骨片は垂鈴状 (図 12-1U, 78D-G)  
. . . . . ハナウミイチゴ属 *Parasphaerasclera* \*
- 32B. ポリプに骨片がある . . . . . 33
- 33A. 共肉皮部の骨片は、8放射状 (図 12-2G, 47A) や2連頭状 (図 12-2C)  
. . . . . ウミイチゴ属 *Eleutherobia*
- 33B. 共肉皮部の骨片は、紡錘状 (図 12-1J) 又は棍棒状 . . . . . 34
- 34A. 共肉皮部は、多数の小さな突起を付けた長さ 0.3 mm までの紡錘状 (図 44C, E) または棍棒状骨片に覆われる . . . . . ホンウミイチゴ属 *Bellonella*
- 34B. 共肉皮部は、多数の疣状突起を付けた長さ 2 mm 以上の紡錘状骨片 (図 107D) に覆われる . . . . . タイマツトサカ属 *Nidalia*
- 35A. 柄部外皮の骨片は、細長く伸長した6放射状 (図 12-2F) または8放射状 (図 12-2G, 63F-G) および少数の突起を付けた細長い桿状 (図 63I)。深海性  
. . . . . ミナベトサカ属 *Minabea* \*
- 35B. 柄部外皮の骨片は、樽状 (図 64E)、6放射状または8放射状および垂鈴状 (図 12-1U) で、細長い桿状骨片を欠く  
. . . . . オオミナベトサカ属 *Paraminabea* (\*)
- 36A. 群体は小枝状、ヤブ状 (図 36A) または樹状。群体の頂端にポリプがある . . . . . 37
- 36B. 群体は多肉質のキノコ状、ドーム状または底質を分厚く覆う塊状。ポリプは共肉に退縮する . . . . . 63
- 37A. 群体は小枝状またはヤブ状で、主軸 (幹部および柄部) の内部にはただ一つの導管 (母ポリプの導管) がある (図 34D, 35C) . . . . . 38

- 37B. 群体はヤブ状又は樹状で多少とも豊富に分枝する。柄部内部に複数の導管がある (図 37E) . . . . . 42
- 38A. 群体は小枝状で、母ポリプの側方または4方向に娘ポリプが生じる単純な構成 . . . 39
- 38B. 群体はヤブ状 . . . . . 40
- 39A. 群体は直立する母ポリプ (主枝) の側方に娘ポリプが交互に出る単軸分枝 (図 9A)。幹部皮部の骨片は樽状 (図 34F)。色は汚白色~淡褐色 . . . . .コエダ属 *Telesto*\*
- 39B. 群体は、母ポリプ (主枝) の側方から出た娘ポリプが新たな主枝になる分枝を繰り返すことにより、ジグザグの外観を呈する仮軸分枝 (図 9B)。幹部皮部の骨片は互いに融合した不定型な桿状 (図 37H) . . . . .ハナノエダ属 *Pseudocladochonus*\*
- 40A. 分枝は少ない。柄部は枝部とほぼ同じ太さか僅かに太い。触手と花頭は花柄に退縮する . . . . . 41
- 40B. 分枝は多数回。柄部は枝部より著しく太い。触手と花頭は花柄に退縮しない。幹部皮部の骨片は大きな疣状突起を付けた紡錘状 (図 38H)。色は汚白色~クリーム色 . . . . .フトジクコエダ属 (仮称) *Coelogorgia*\*
- 41A. 幹部皮部の骨片は、細長い樽状 (図 35H) または太くて鈍端の紡錘状または枝分かれした不規則な形状等。色は赤 . . . . .ベニコエダ属 *Paratelesto*\*
- 41B. 幹部皮部の骨片は少数の疣状突起を付けた棍棒状または棹状 (図 36E)。色は汚白色~クリーム色 . . . . .ヤブコエダ属 *Carijoa* (\*)
- 42A. ポリプを付けた冠部全体が、柄部に退縮することができる。退縮時は縮んだイソギンチャク状または豆粒状 . . . . . 43
- 42B. ポリプを付けた冠部全体が、柄部に退縮することはない . . . . . 46
- 43A. ポリプは単型 . . . . . 44
- 43B. ポリプは二型 (図 4)。群体は著しく多数に分枝する樹状で、伸長時は高さ 30 cm前後で縮んだときはイソギンチャク状 (図 122A-B) . . . . .ニンジントサカ属 *Carotalcyon*\*
- 44A. ポリプは背面に支持骨片束 (図 10B) を付け左右相称。群体は伸長時の全高 5cm 以上のモミの木状、縮んだときはイソギンチャク状 (図 125A-C) . . . . .トガリトサカ属 *Studeriotis*\*
- 44B. ポリプは支持骨片束を付けない円筒形で放射相称 . . . . . 45
- 45A. 群体は伸長時の全高がせいぜい 1cm くらいで、縮んだときは豆粒状。近隣の群体同士がリボン状の走根で繋がることはない (図 124A-C) . . . . .マメツブトサカ属 *Nanalcyon*\*
- 45B. 群体は伸長時の全高が 3cm くらいで、縮んだときはイソギンチャク状。近隣の群体同士がリボン状の走根で繋がる (図 123A) . . . . .カワリトサカ属 *Ceceenus*
- 46A. 柄部皮部は、長さ 1 mm以上の大きな紡錘状骨片が緻密に縦列していて、固い。共生藻を欠く . . . . . 47
- 46B. 柄部皮部は、長さ 1 mm以下の紡錘状や針状、放射状骨片に覆われていて、多少とも柔らかくてしなやか。枝部皮部には長さ 3 mm以上の紡錘状骨片が散在することがある。ポリプは莢を欠く . . . . . 50
- 47A. 群体は、太い柄部上端でわずかに膨れた冠部を付ける (図 82A)。ポリプは莢を欠き、退縮しない。ポリプと共肉皮部には長さ 3 mm以上の紡錘状骨片がある。共肉内部に骨片はない。ポリプは強大な支持骨片束を持つ。深海性 . . . . .カンムリトサカ属 *Coronephthya* (\*)
- 47B. 群体は、樹状で、ポリプは莢に多少とも退縮する . . . . . 48
- 48A. 群体は多肉質の太い枝をまばらに付ける樹状で (図 108A-B)、共肉皮部の骨片は長さ 1 mm以上で、共肉内部に骨片は少ない。群体の色はピンク~赤、稀に白と赤の2色

・・・フトクダヤギ属 (仮称) *Nephythigorgia\**

48B. 群体は細い枝を豊富に分枝する樹状で (図 10J-K)、共肉皮部の骨片は長さ 3 mm 以上で、共肉内部にも大きな紡錘状骨片が充満する・・・・・・ 49

49A. 群体は多少とも全方向に分枝する樹状 (図 8K) またはヤブ状で、下向きに伸びる枝の出ることがある。ポリプは末端枝の先端付近で密集する他、主枝や幹部全体にわたり著しく広い間隔で散在する。莖は、すべてカップ状 (図 109D)。下向きに伸びる枝の出ることがある・・・・・・クダヤギ属 *Chironophthya*

49B. 群体は、ほぼ一平面に分枝する樹状で (図 8J)、下向きに伸びる枝はない。ポリプは末端枝の先端付近で密集する他、主枝と場合によっては幹部全体で比較的狭い間隔で散在する。莖は末端枝ではカップ状、主枝と幹部では円錐状 (図 120H)

・・・ホンクダヤギ属 *Siphonogorgia* (\*)

50A. ポリプは支持骨片束を欠き、多少とも共肉中に退縮するか、または伸縮性に富む。ポリプは冠部全体に単独で付く・・・・・・ 51

50B. ポリプは共肉中に退縮することなく、ほとんど伸縮しない・・・・・・ 57

51A. ポリプは完全に退縮する。共肉皮部には二連星状 (図 12-2D) か、大きな疣を付けたごく少数の桿状骨片があるが、内部に骨片はほとんどない。生時は半透明な赤～薄いピンク (図 93A-B)。エタノール標本では淡褐色から汚白色。深海性

・・・・・・キタトサカ属 *Gersemia*

51B. ポリプは部分的に退縮するか、または伸縮性に富むが、完全に退縮することはない・・・・・・ 52

52A. 群体は、共通の基部からほとんど分岐しない多数の指状突起が直立する (図 8C, 98A-D)。共生藻を持つ・・・・・・ 53

52B. 群体は、伸長時は主枝から多数の枝が分岐する樹状・・・・・・ 54

53A. 指状突起はやや硬く、収縮時もほとんど変形しない。ポリプと共肉には少数の突起を付けた紡錘状と針状骨片が卓越する (図 98F-H)・・・・・・ウミワラビ属 *Paralemmalia*

53B. 指状突起は著しく柔らかく、収縮時の冠部は多数の瘤状の裂葉に覆われる (図 40D-E)。ポリプと共肉の骨片は多孔質の扁平な楕円状 (図 12-10, 41A-E)。生時は白～緑褐色。エタノール標本では淡褐色。共生藻を持つ・・・・・・オバナトサカ属 (仮称) *Aldersladum*

54A. 群体は、収縮時は団塊状・・・・・・ 55

54B. 群体は、収縮時も多数の枝の分岐する樹状。柄部は短く、その上端から数本の大きな幹部が分岐する・・・・・・ 56

55A. ポリプの骨片は小さな円盤状または扁平な楕円状 (図 12-1Q, 128E) で、光学顕微鏡下では金属光沢がある。生時は透明な灰色～薄褐色で (図 128A-B)、時に緑や青色の光沢を放つ。エタノール標本では灰色～淡褐色。共生藻を持つ

・・・・・・エダアザミ属 *Cespitularia*

55B. ポリプで卓越する骨片は細長い紡錘状 (図 101D, 103C)。内部には紡錘状骨片があるかまたは欠く。生時はオレンジ～ピンク～黄色 (図 99, 100A, 102A)。エタノール標本では淡～濃褐色。共生藻を欠く・・・・・・ベニトサカ属 *Scleronephthya*

56A. 枝部は半透明でぶよぶよしている (図 79A-B)。ポリプは冠部と枝部全体に単独で散在する。共肉皮部の骨片は小さな疣の散在する桿状 (図 79H-J)。共生藻を欠く。深海性・・・・・・クラゲトサカ属 (仮称) *Aquaumbra* \*

56B. 枝部は不透明でわずかに皮革質 (図 94A-B)。ポリプは末端枝全体に単独で散在する。枝部皮部の骨片は細長い桿状 (図 94I) で、幹部下部および柄部皮部の骨片は三日月状 (図 12-1W)、腕木状 (図 12-1V) および放射状。共生藻を持つ・・・・・・ウミゼリ属 *Lemmalia*

- 57A. ポリプは多少とも支持骨片束 (図 10B) を付ける . . . . . 58
- 57B. ポリプは支持骨片束を付けない . . . . . 60
- 58A. ポリプは冠部全体に単独および数個ずつ不規則に集まって付く。花頭は多少とも明瞭なポイント (図 83D) を持つ。共生藻を欠く . . . . . 59
- 58B. ポリプは枝の周囲を覆うように尾状花序 (図 9J) で単独で付く。ポリプ頭部の装甲は不規則で、ポイントは明瞭でない。共生藻を持つ . . . . . チヂミトサカ属 *Nephthea*
- 58C. ポリプは枝の全体にわたり常に数個ずつ束に集まって付く (図 9I)。群体の形状は、団集花序 (図 83A)、集散花序 (図 83B)、散形花序 (図 83C) 等さまざま。花頭を装甲する骨片は明瞭なポイント (図 83D) を形成する。共生藻を欠く  
. . . . . トゲトサカ属 *Dendronephthya*
- 59A. 花頭を装甲する骨片は腹面も含めて紡錘状である。花柄腹面に桿状骨片 (図 12-1C, 104H) がある . . . . . ハナトサカ属 *Stereonephthya* (\*)
- 59B. 花頭腹面を装甲する骨片は桿状である (図 81G)。ポリプ柄部腹面に桿状骨片はない  
. . . . . イロトサカ属 *Chromonephthya*\*
- 60A. 柄部は、少なくとも全長の 9/10 以上を占め著しく長い (図 97G)。群体は、柄部の頂端から数本の枝が放射状に出る特異な形状 (図 97A-D)。ポリプは放射相称で、花頭の装甲は弱い。骨片はすべて紡錘状。共生藻を欠く . . . エナガトサカ属 *Pacifiphyton*
- 60B. 柄部は、全長の 2/3 以下の長さ . . . . . 61
- 61A. 群体は散形花序 (図 83C, 105B, E)。ポリプ背面には他よりも大きな骨片が縦列するが、支持骨片束 (図 10B) は作らない。花頭を装甲する骨片は明瞭なポイントを形成するがクラウンはない。共肉の骨片は 8 放射状 (図 12-2G, 105I-J) か紡錘状。共生藻を欠く . . . . . カリフラワートサカ属 *Umbellulifera*\*
- 61B. 群体は散形花序でない。ポリプは、枝の周囲を覆うように尾状花序 (図 11J) で付く。共生藻を持つ . . . . . 62
- 62A. 群体はやや硬く、太くて短い枝を分岐する (図 80A-C)。花頭は葉頭の垂鈴状 (図 80Fa) および葉頭の棍棒状骨片 (図 80Fb) で覆われる。柄部皮部の骨片は葉頭の垂鈴状 (図 12-2A, 80Fc) である . . . . . カワラフサトサカ属 *Capnella*
- 62B. 群体は柔らかく、細長い多数の枝を分岐する (図 95A-B)。共肉皮部の骨片はすべて紡錘状で、時に片側だけに大きな突起を付ける (図 95F)。柄部内部の骨片はほとんど滑らかな紡錘状 . . . . . ヤナギトサカ属 *Litophyton*\*
- 63A. ポリプは単型で、莖を欠く . . . . . 64
- 63B. ポリプは二型 (図 4) . . . . . 69
- 64A. 群体は垂直に立ち上がる柔らかい塊状。冠部は多数の指状の枝に分岐する . . . . . 65
- 64B. 群体は、水平に広がるシート状、背の低いドーム状または塊状。共生藻を持つ . . . . . 67
- 65A. 指状の枝は細長くて著しく柔軟。共生藻を持つ . . . . . 66
- 65B. 指状の枝は太くて少し柔らかい (図 45A-B)。冠部皮部に骨片はなく、内部には長さ 3.5mm に達する紡錘状骨片がまばらに散在し、柄部内部には長さ 6mm に達する紡錘状骨片が充満する。花頭はポイントとクラウン (図 83D) で装甲される。生時の色は、冠部は灰青色、ポリプは赤褐色。共生藻を欠く  
. . . . . フトユビトサカ属 (仮称) *Elbeenus* \*
- 66A. 共肉の骨片は、滑らかで低い円錐状突起を付けた鈍端の紡錘状 (図 53D-G)  
. . . . . ヤワトサカ属 *Klyxum*
- 66B. 共肉には薄い楕円状骨片 (図 129G) があるか、または骨片を欠く。枝の先端が長く伸びた走根から新たな群体を生じることが多い (図 129A-C)

・・・コヅレウミアザミ属 (仮称) *Efflatounaria* (\*)

67A. 群体は背の低いドーム状で、冠部表面は多数の丸みを帯びた裂葉に覆われる (図 48A-F, 135A, 138A-B)。群体の直径はふつう 10 cm以下で著しく柔らかい・・・・・・68

67B. 群体は塊状で、冠部上面には瘤状、畝状または裂葉状等の隆起がある (図 72A-F)。柄部皮部の骨片は頭飾りを付けた棍棒状 (図 12-1L) で、内部はふつう長さ 1 mm以上の紡錘状骨片が充満して、群体は硬い。群体の直径は 1m を超すことがある

・・・・・・カタトサカ属 *Sinularia*

68A. 共肉の骨片は、微小な円錐状突起を付けた亜鈴状 (図 12-1S) や 2 連頭状 (図 12-2C)、2 連星状 (図 12-2D)、8 放射状 (図 12-2G)、中央にくびれのある樽状 (図 12-1T)・・・・・・ノウトサカ属 *Cladiella*

68B. 共肉の骨片はコンペイトウ状 (図 138I)

・・・・・・コンペイトウアザミ属 (仮称) *Asterospicularia* (\*)

68C. 共肉の骨片は円盤状または扁平な楕円形 (図 12-1Q, 135D) で、表面は桿状結晶 (図 12-2N) で覆われる・・・・・・チヂミウミアザミ属 *Symphodium*

69A. 冠部と柄部の境は明瞭で、冠部は多少とも広がり群体はキノコ状・・・・・・70

69B. 冠部と柄部の境は不明瞭で、群体は底質を分厚く被覆するシート状または塊状。共生藻をもつ・・・・・・71

70A. 群体の縁辺は波打つことが多い (図 67)。冠部共肉の骨片は、皮部は頭飾りを付けた棍棒状 (図 12-1M,O) で、内部は多数の瘤状突起を付けた細長い紡錘状。群体の色は灰色～褐色または緑褐色で共生藻を持つ・・・・・・ウミキノコ属 *Sarcophyton*

70B. 群体の縁辺が波打つことはない (図 77A)。冠部共肉の骨片は 8 放射状 (図 12-2G) または 2 連星状 (図 12-2D) と刺々しい少数の突起を付けた紡錘状。群体の色は黄色～オレンジ色または暗赤色で共生藻を欠く・・・・・・ウミテングタケ属 *Anthomastus* (\*)

71A. 群体は底質を分厚く覆うシート状で (図 61A-E)、冠部上面に瘤状、畝状または裂葉状等の隆起はない。通常ポリプは莢を欠く。冠部皮部の骨片は垂直方向に緻密に配列する長さ 1.5 mmに達する紡錘状骨片、内部は長さ 4 mmに達する紡錘状骨片が充満する。通常ポリプの花頭は、長さ 0.5 mmに達する紡錘状骨片で装甲する

・・・・・・カタトサカモドキ属 (仮称) *Lohowia* \*

71B. 冠部上面には瘤状、畝状または裂葉状等の隆起がある (図 54, 62)・・・・・・72

72A. 群体は背の低いドーム状またはシート状。通常ポリプは莢を欠く。冠部皮部の骨片は多数の瘤状突起を付けた棍棒状 (図 12-1N, 56B, 58B) で、内部は数段の瘤状突起が輪生する紡錘状 (図 12-1K, 56C, E, 58C, E) や太短い円柱状・・・・・・ウネタケ属 *Lobophytum*

72B. 群体は垂直に立ち上がる塊状。冠部皮部の骨片は 8 放射状 (図 12-2G, 62H)、内部では樽状の輪郭を持つ骨片 (図 62I-J) が増加する。通常ポリプは莢状のポリプ丘 (図 62G) に退縮し、骨片を欠く・・・・・・ウネタケモドキ属 (仮称) *Notodysiferus* \*